



ちやっぴりつぶ通信

笑顔を咲かせよう♪



Vol.4 | 令和2年
2020 | 1月号

新鶴見ホームを訪ねて

**特養として市内最大規模の施設。
数多いスタッフの力を活かし、お客様への
きめ細かいサービスを提供したい。**

令和2年の今年、開所20周年を迎える新鶴見ホームは、横浜市福祉サービス協会が運営する市内3カ所の特別養護老人ホームの中でも最大規模の施設で、本館と新館をあわせ333人のお客様が入所されています。要介護度は本館で4・3、新館で4・0ほど。介護保険制度開始に合わせて作られた施設で、特養のほかにもショートステイ、デイサービス、認知症デイサービス、居宅介護支援のサービスを提供し、介護福祉士を中心としたスタッフの数は297名を擁する大所帯です。

横浜市の中でも人口が多い区のひとつである鶴見区にあり、近くにはマンションが建ち並び、小学校でも生徒数が増えてきていることで、高齢者と子どもたちという世代のバランスがとれた活気のある土地柄といえそうです。

事務長の小山健介さんによれば、施設の規模に応じてスタッフの数が多く一人ひとりのお客様に行き届いたサービスが提供できるうえ、よりよい運営やサービスのためのアイデアがパッとたくさん集まるそうです。地域の人々と交流するお祭りなどの際には、スタッフ一丸となって運営するので、すごいパワーを発揮するのだとか。また専門知識と介護福祉士などの資格を身につけた意欲のある若手スタッフが多く、それぞれが高い能力とホスピタリティをもってお客様のケアに当たっているといます。

大好きだった祖父の病気をきちんと理解して看取れなかった体験が、介護福祉士になった出発点。



「大好きだった祖父の病気をきちんと理解して看取れなかった体験が、介護福祉士になった出発点。」

毎日お客様に会えることが楽しくて、うれしいんです。毎日会ってお世話しているので、自分のおじいちゃん、おばあちゃんみたいで、好きになってしまふ感じ(笑)。出勤して家族に会えるような気持ちでいます。大好きだった祖父の病気をきちんと理解して看取ることができなかった檜山さんにとって、ご新鶴見ホームは、おじいちゃん孝行、おばあちゃん孝行をやり直せる場でもあるのかもしれない。『この仕事が大変だという気はまったくしないですね。出勤してお客様に名前を呼ばれたり、待たせたりと声をかけられたりすると本当にうれしくて』と明るく語ってくれました。

働く職場環境についても、入社する前は職場での人間関係を一番心配していたものの、とても風通しのよい職場で、『先輩たちはみんな経験を積んで、能力も高いすごい人たちというか、尊敬できる人ばかりです。リーダーの方も親身になって話を聞いてくださるうえ、仕事が終わってから相談に乗っていただける』と、仕事のやりがいに加えて、優れたスタッフに囲まれている環境についても満足している様子。今後の目標については、お客様本人とご家族から信頼される介護福祉士になる努力を続け、『この新鶴見ホームという特養で、最期をここで迎えてよかったです』とも思ってもらえるようにお客様の毎日の生活を大事に支えていきたい』といいます。



97歳の吉田はるのさんは、檜山美咲さんがお気に入り。「孫みたいな子が一生懸命やってくれるからうれしい」。

自分にできることは微々たるものかもしれない。しかし、そのなかでも全力を尽くしたい。



「自分にできることは微々たるものかもしれない。しかし、そのなかでも全力を尽くしたい。」

若手でありながら「ユニットリーダーを務める鈴木翔貴さんにも話をうかがいました。鈴木さんは福祉の専門大学で心理学を学び、卒業して最初は障がいがある人の機能訓練をサポートしていく職場に勤めたといいます。そのためお客様の逝去、看取りもある特養の仕事には当初とまどいを覚えたこともあるそうです。

『実際ケアしていたお客様がお亡くなりになったときは、ぼくもちよつとショックを受けました。仕事とはいえ、人の生死にかかわるとはこういうことかと思いました。ただ、生死にかかわるからこそ、人の生をよりよくするために、自分に何ができるのかということを真剣に考えたそうです。』

『人は誰も平等に命が尽きるものですし、それを迎える場所であるわけですから、最期の花道でないですけど、ご本人がその人らしく生きて亡くなっていくためにどうすればいいか。ご家族との関係をしっかりとつづけていきながら考えていかなければならない。ぼくらにできることは微々たるものですが、それでも全力を尽くしたい。』

現場の仕事は楽しいですよ、という鈴

木さん。』ご年配の方と接しているところ、こちらがケアするだけでなく、得るものもたくさんあり、ときおり戦争体験の話などを聞くと勉強になる』と感じるそうです。

現在はユニットリーダーという立場であるため一般の介護福祉士のスタッフより、やはり全体を見ることに求められ、やるべきことを整理しながら目標を掲げ、トライアンドエラーで取り組んでいるそうです。

まだまだ勉強中ですと謙虚に語る鈴木さんですが、ユニットの職員が十分に能力を発揮して働くためにどうすればよいか、ユニット全体が潤滑にいくよう、他のユニットとの調整もはかりながら、最終的にお客様によりよいサービスの提供につながるようについていきたいと考えています。

現場の仕事に加え、ユニット全体を見ながらの仕事は大変そうですが、その責任や勉強もまた楽しいと感じるそうです。『福祉の仕事はすごく好きなので、苦になりません。仮にもし辛くなったら、そのままでは仕事というのは続けられるものではないと思います。自分で楽しみとやりがいをもって働く方がモチベーションもあがりやすいし、おこがましいですけども、ユニットリーダーという立場で自分のテンションが下がっていたら周りにも悪影響が出ますしね』ときっぱり。こうしたユニットリーダーやスタッフたちの高い意欲が、新鶴見ホームに広がる明るい雰囲気を作っているようです。



鈴木翔貴さん。現場を大事にしながらユニットリーダーとして率先して動いている。

インドネシアで看護師としての経験を積み来日。日本では介護福祉士としてお客様に寄り添う。

新鶴見ホームには外国籍スタッフも在籍して活躍しています。ダンタさんもそのひとりで、EPA（経済連携協定）に基づいてインドネシアから来日し、10年前から横浜市福祉サービス協会で介護福祉士として働いているとのこと。

インドネシアにいたときは看護師の資格を持ってクリニックで働いていたそうで、その経験が、日本に来て役に立っているといいます。

『クリニックは皮膚科でしたので体はお元気な患者さんたちが多く、ここでは高齢で体力もない方が多いです。でも、人が相手という点では看護師も介護福祉士も同じです。人と接することが好きな私にはとてもやりがいのある職場です。心がけていること、大事にしていることは、やはり心をこめて接すること。お客様が安心してくださるよう、コミュニケーションをしっかりとって信頼関係を築けるようにしています』



と明るく上手な日本語で話すダンタさん。とはいえ日本語には最初は苦労して、介護福祉士として働き始めても語彙が足りないと感じたので、新鶴見ホームのスタッフ

にいろいろ聞いて助けてもらったといいます。

『介護の勉強と同じくらい日本語の勉強を一生懸命しました。そのために介護福祉士の本だけでなく、テレビを見て言い回しや早口に慣れるようにしました。

日本語の小説なども読んで、言葉の使い方も勉強しました。わからないところがあちこちあるので、辞書で調べたり、難しい介護の専門用語とかは介護現場のみなさんに聞いて覚えめました。私が努力したというより、職員のみなさんのおかげです』と、微笑みながら謙虚に語る。これからも日本の介護現場で働き続けたいというダンタさんの夢は、あくまで介護福祉士としての仕事をしっかりとやり続けること。

『日本は来る前から、すごい国と思っていました。EPAというきっかけがあって来日しましたが、実際に来てこの目で見ても、日本はいろいろな面ですごい国だと思います。その国で介護を学び続け、こころを込めてケアしていきたい。お客様との信頼関係ができること、どんどん私を呼んでくださるので、それがなによりうれしい』と明るく語るダンタさん。お客様との信頼関係をなにより大事にするその姿勢は、新鶴見ホームの理念とも重なりあっています。



丁寧な日本語で話すダンタさん。お客様だけでなくスタッフからも慕われている。

鶴ヶ峰地区

地域交流の場『中田カフェ』を
立ち上げた
生活支援コーディネーターに
お話を聞きました！



鶴ヶ峰地区で地域カフェを立ち上げた鶴ヶ峰地域ケアプラザの生活支援コーディネーターの高橋大輔さん。地域での参加者も増え、評判も上々のようです。こうした場を作るに至った経緯を、ご本人に聞いてみました。

『鶴ヶ峰地区の西川島町中田町内会というエリアですが、この町内には商店もなければコンビニもなく、買い物などは駅まで歩いて行くしかないところなのです。そんな様子を見ていて、みんなが気軽に出かけられる居場所があるといいのではないかと思い立ち、町内会長さんとも話し合っ、まず住民アンケートを実施し、みなさんの声を聞くところからスタートしたのです』と高橋さん。

高齢世帯だけでなく、子育て世帯にも意見を聞いてみると、アンケートの対象を幅広くしたところ、地域の集いの場がほしいという声が多く、370世帯のうち70人以上が居場所を求めているという結果に。町内会の役員さんたちにも地域カフェを作ってみませんかと提案したそうです。



『場所は町内会館があるので確保できるのですが、運営をどうするかについては少し悩みました。そんなとき「まどか工房』

という障がい者の地域作業所があり、運営協力をお願いしたところ快諾を得て「中田カフェ」として平成30年6月からスタート。幸い、居心地のよさや気軽さが受けて、さまざまな世代の人が訪れる場所になっているようです。

ケアマネジャーから生活支

援コーディネーター、そして社会福祉士という資格も持つ高橋さんの今後の目標は、『高齢者がどんどん増えていく時代です。介護保険というものもありますが、それだけではできない部分を、地域の方々に協力してもらい、一人ひとりの高齢者が安心して暮らせる、誰かの目が必ず届いているような地域作りをすること』。熱意あふれる高橋さんの活躍がこれからも楽しみです。



鶴ヶ峰地域ケアプラザ 生活支援コーディネーター
社会福祉士 高橋大輔さん

新鶴見ホーム

はJR川崎駅西口またはJR横須賀線武蔵小杉駅
または東急東横線武蔵小杉駅東口より

臨港バス55系統 江ヶ崎八幡下車、徒歩1分。

JR南武線尻手駅より徒歩10分。

所在地：横浜市鶴見区江ヶ崎町2-42

☎045-1570-15000

鶴ヶ峰地域ケアプラザ

は相鉄線鶴ヶ峰駅より徒歩7分。
市営バス75系統 鶴ヶ峰小学校前下車、徒歩2分。

所在地：横浜市旭区鶴ヶ峰1-38-13

☎045-1382-16070

それぞれお気軽にお問い合わせください。

介護者のための相談電話

介護に疲れたとき…ほっとライン

介護に疲れて行き詰まったり、不安になったりしたとき、
ひとりで悩まないで、ほっとひと息ついてみませんか？

☎045-227-1718

「お客様相談室」をご利用ください

「お客様相談室」では、事業やサービスについてのご意見や
ご要望をお受けしています。まずはお気軽にお電話ください。

☎0120-701-782 FAX 045-227-1721

※受け付けは年末年始および祝日を除く月曜～金曜の8:45～12:00 / 13:00～17:15まで。ご相談の秘密は厳守いたします。

協会の理念

- お客様の満足
- 人を大切にし共に育ちあう企業風土
- 公正で透明感のある企業倫理

社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会

〒220-0021 横浜市西区桜木町6丁目31番地 6階

☎045-227-1700 FAX 045-227-1701

ホームページ <http://www.hama-wel.or.jp/>



古紙ハルブ配合率80%再生紙を使用